

FIAFハノイ会議報告

A Report on the 60th FIAF Congress in Hanoi

東南アジア太平洋地域の映画保存運動
—その新たな展開

岡島 尚志

Hisashi Okajima

連載:

フィルム・アーカイブ
の諸問題
第53回

第60回国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)会議は、ベトナムのハノイで、4月19日(月)から24日(土)まで開催された。本稿は、今会議の概要をシンポジウムを中心に報告し、特に重要と思われる議論を紹介するものである。

(H0)

初の共同開催 — “No Time, No Money”

第60回となった本年のFIAF会議は、第8回SEAPAVAA(東南アジア太平洋地域視聴覚アーカイブ連合¹⁾)年次会議との共同開催となった。FIAF会議史上初その他団体との共催であり、開催地とその周辺国のアーカイブが抱える映画保存をめぐるさまざまな、そして深刻な問題を「ノータイム、ノーマネー映像保存の緊急性」というシンポジウム・テーマに託しての開催である。

東南アジア太平洋地域といえば、伸張著しいとはいえ未だ経済的には豊かとは言いがたく、一方で映画製作は盛んであり、しかも気候が高温多湿であるという、映画保存にとっては困難な条件がすべてそろってしまう国々が少なくない。十分なアーカイブの施設もなく、多くのフィルムは放置され散逸し、眼前に残ったフィルムは複製の予算もなく日に日に劣化している——主催者がシンポジウム・テーマを「時間もお金もなく」としたのも首肯できるところではある(むろん、ラテン・アメリカ諸国もアフリカ諸国も状況にそれほどの違いがあるわけではないが)。そうした地域の関係者にとって希望となっているのはオーストラリアが主導し援助を惜しまないSEAPAVAAであり、それが関係を深めているユネスコとその傘下にあるCCAAA(Coordinating Council of the AV Archives Association、視聴覚資料館連合連絡協議

会²⁾だが、どれをとっても充分とは言いがたいというのが実態である。

発見と返還

ホストとなったベトナム映画協会(英語名 Vietnam Film Institute、以下、略称VFI)はもちろん、フィリピン、タイ、ラオス、マレーシア、インドネシアといった参加国のアーカイブの報告発表は、それが国家的取り組みであろうと草の根的努力であろうとみなさわめて真摯なものであるが、残念ながら映画の保存事業としてどこもあまりにも不十分ではあることを明かすものとなってしまう。こうした現実を、会議テーマをもじって「安価な解決法はないし、白紙の親切手もないし“No Cheap Solutions,

No Blank Cheques”と表現する向きさえあった。そんな中でいくつかの朗報あるいは注目すべき情報を挙げてみると——

(1) 1998年、二国間政府協定に基づいて、1,192巻(523本)のラオス映画がベトナムからラオスへ返還された。ラオスは本年4月、ベトナムの協力も受けて、フィルム保存庫の建設に着手した。なお、ラオス国立フィルム・アーカイブ & ビデオ・センター(LNFAVC)³⁾の総職員数は4部門で20名。

(2) スウェーデン映画協会(SFI)は、1995年以来、フィルム洗浄機材の提供をはじめ、VFIを支援しベトナム映画の保存に協力してきた。1998年には300巻以上のベトナム関連記録映画を寄付、また、もっとも新しい成果としては、

ベトナムの映画保存

正式な国名が「ベトナム社会主義共和国」たるベトナムの映画保存事業は、社会主義体制下らしく、首都ハノイにある文化情報省所管の国立機関、ベトナム映画協会(VFI)によって集中的かつ網羅的に行なわれている。今回、発表された最新の資料¹⁰⁾によれば、1979年の設立¹¹⁾から25年近くが経過したVFIによるフィルム・アーカイブ事業の内容は概ね、以下(表1)のようなものである。

表1

所蔵映画フィルムの規模	約20,000本(80,000巻以上、2,200万メートル)
保存庫	ハノイとホーチミンの両市に所在
保管環境	室温10℃～12℃、湿度40～45%

また、VFIはさまざまなノンフィルム資料の収集にも当たっており、将来的にはこうした収集物を生かして「ベトナム映画博物館」への発展をめざしているという。FIAFには1987年に加盟し、SEAPAVAAの創立メンバーの一つでもある。

名の示すように、VFIは映画の収集・保存・目録化／文書化・修復のみならず、上映(専用劇場がハノイとホーチミンに一つずつある)、記録映像を中心とする製作、映画史・理論や保存技術等の調査研究、資料翻訳、出版、教育、輸出入、著作権業務など、多岐にわたる仕事を行なっているが、その核となるのは常にアーカイブ関連事業である。

映画保存には不利な熱帯の地であって、しかし、VFIが考案し実践している方法論は、2つの点で世界的に見てもユニークであり大いに注目すべきものであった。それは、共にビネガー・シンドローム対策を主眼とするもので、(1)特産の良質なカオリン磁土を用いて(富士フィルムやコダックの既製品とは別に)自前で「ゼオライト・モレキュラー・シーブ」(ZMS)¹²⁾を開発・生産してフィルムの酢酸ガス吸着や湿度低下に役立てていること、(2)コアを抜いて完全な帯状に解いたフィルムを通気性に富んだバスケットの中に入れ、その籠を複数、大きな箱状の吸引装置に装填し、丸2日間酢酸ガスを吸引し続けていること、である。前者は豊富な特産資源を利用した賢明な方法だし、後者の一見素朴とも原始的とも見えるやり方も、温湿度を高精度で低く一定に保つことに経済的技術的な困難を伴うベトナムでこそ、相当な効果を上げ、近隣諸国の範ともなっているように思われた。保存のための機材は旧ソ連製の古色蒼然たるものも少なくないが、一方にはこうした工夫があることを、責任者N・H・チー博士が大いに胸を張って説明していたのが感動的であった。(H0)



酢酸フュームの吸引装置

「オレンジ・ベル・エコー(The Orange Bell Echo)」(カラーネガはオルヴォのNC3)という1980年代のベトナム製カラー映画の復元に協力した。シンポジウムでは、復元に使われたさまざまなテスト・ピースが比較上映された。

(3)60年以上にわたって失われていたフィリピン映画「サンボアンガ(Zamboanga)」(1936年撮影)が、米議会図書館映画放送録音物部に35mmプリントで残っていることが分り里帰りを果たした(米国公開は1938年)。フィリピンのスタジオ・システム最初期の作品であり、現存するフィリピン製長篇劇映画としてはこれが最古のものとなった。ヘラルド・デ・レオンの「蛇魔(Sanda Wong)」(1956年、フィリピン=香港合作)が、香港フィルム・アーカイブで所蔵確認された⁴⁾ほか、フランスやタイ、マレーシア等でもフィリピン映画、フィリピン人監督の作品が見つかっている。⁵⁾

国際協調 ― “Never Throw The Film Away”

シンポジウムは、SEAPAVAA側が苦境と問題点を訴え、FIAF側が解決策を教示するという構図になることも少なかった。結論的に、^{リハビリテーション}製作国への返還事業やリール・エマージェンシー・プロジェクト⁶⁾、国を超えたアーキビスト養成や教育、危機に瀕している映像音響文化財の索引作成(FIAF、SEAPAVAA、IASA共同)、所蔵作品情報の公開とその国際的な共有、海外ボランティアを行なうアーキビストの募集などを、今以上に推進・強化することが両団体間で確認された。

「時間もお金もない」という状況で、^{アーカイビング}映画保存を効率的に行なうための可能な限り簡易なカタログリング／インベントリー・コントロールが提案されたり、ユネスコの「メモリー・オブ・ザ・ワー

ルド(MOW)」⁷⁾に登録する可能性についての説明があったりする中で、本格的なデジタル時代の到来を迎えてFIRSTプロジェクト⁸⁾を立ち上げたEUからの専門家を代表して、ポール・リードが「どんなことがあってもフィルムを捨てること」をあらためて強調していたのが、他のなによりも印象的であった。⁹⁾

(フィルムセンター主任研究官)

註

- ここに記載した団体名の日本語(「協会」「連合」「ナショナル」等)は、(どこまでを片仮名にすべきか、漢語に訳すべきか等を含めて)必ずしも適訳であることを保障しません。
- CCAAAに参加しているのは、FIAF、SEAPAVAAのほか、FIAT(テレビ)、IASA(音響)、AMIA(映像[個人単位])、IFLA/AVMS(図書/映像部門)、ICA(公文書/映像部門)。
- ラオスの映画保存については、本誌第55号(5頁)もご参照ください。
- 宇田川幸洋氏が、第24回香港国際映画祭(2000年)報告で、すでに本作について触れている。
- こうした調査にはニック・ディオカンボ(モーウェルファンド・フィルム・インスティテュート主宰)の果たした貢献が大きい。
- 詳細は本誌第54号トピック欄をご参照ください。
- 貴重な史料遺産などを保護するためにユネスコが推進する国際的な登録制度で、映画では、「メトロポリス」(ドイツ、1927年公開、2001年登録)と「忘れられた人々」(メキシコ、1950年公開、2003年)のみが登録されている。リュミエール兄弟のフィルム群がフランスから登録される可能性もある。
- Film Restoration & Conservation Strategiesの略。ヨーロッパ・シネマテーク協会(ACE)及びベルギー王立シネマテークの提案から生まれたEU共同の映像保存に関する新たな調査・研究プロジェクトの一つで、デジタル時代に映画映像遺産の保存、復元、利用について勧告を出していくことを目的としている。最初の報告書は2003年春に出された。
- ホーチミン市に支部が置かれている。
- VFI発行のAn Introduction to the Vietnam Film Instituteという小冊子(2003年ハノイ発行、全28頁、ベトナム語・英語)。
- 首相官房令343/CPIにより1979年9月22日に「Vietnam Film Archives」の名で創設の後、1995年8月24日、文化情報大臣令2808/TC-QDにより「Vietnam Film Institute and Archives」と改名された。なお、後者はVFIの正式名称と定義されている。
- 関連ペーパーに、The Use of Zeolite Molecular Sieves (ZMS) for the Prevention of the “Vinegar Syndrome”がある。著者はNguyen Huu Phu, Vu Anh Tuan (Institute of Chemistry, Vietnam Academy of Science and Technology), Bui Van Hoa (Vietnam Film Institute)。

総会決議事項、その他のトピック

- ◆福岡市総合図書館映像アーカイブが、準会員となったことが正式に発表された。
- ◆フランス国立映画センター(CNC)フィルム・アーカイブ代表のボリス・ドロヴィッチから、ベトナム政府に対して、リュミエール兄弟商會が製作した19世紀末のベトナムを撮影したフィルムを含む古く珍しいベトナム関連映像が寄贈された。
- ◆FIAFとSEAPAVAAが、対等の関係でそれぞれの映画映像保存に関する情報、知識、技術等を共有しあい、協力しあうことを明文化した宣言「メモリー・オブ・アンダースタンディング(MOU)」が発表されたが、会長署名によるFIAF側批准にはいたらなかった。メモランダムを発表者は米議会図書館映画放送録音物部次長のバトリック・ロックニー。
- ◆アジア諸国のアーカイブやその職員の親睦組織としてFAFA(Forum of Asian Film Archivesの略。読みは“ファーファ”)が結成された。すでに作られていたAAFAは、実際上、何の活動も行なわれないままであったため、これを解散し、新たにより緩やかな議論の場、交流の機会として結成された。
- ◆オルヴォ(ORWO)ブランドを買収したドイツ企業が、今後のフィルムストックの生産に積極的な意思を見せた。彼らは、(1)フィルム・アーカイブや映画博物館は今後もデュープやインターメディアート素材を含む生フィルムを必要とする。それは特にヨーロッパでは無視できない市場として残る、(2)デジタル・レコードの保存先媒体としてフィルムには有効性がある、という二つの点でフィルム生産に将来性を見ている。
- ◆2004年度FIAF賞はジェラルディン・チャップリンに送られることが発表された(贈賞の時機については調整中)。
- ◆会期中、会議を記念して世界のFIAFアーカイブが提供した10作品の上映が行われた。

fiaf

東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。

National Film Center (NFC) of The National Museum of Modern Art, Tokyo is a full member of the International Federation of Film Archives (FIAF). The Federation brings together institutions dedicated to the rescue and preservation of films, both as elements of cultural heritage and as historical documents.

東京国立近代美術館ホームページ
http://www.momat.go.jp/

お問い合わせハローダイヤル
☎03-5777-8600

「NFCニューズレター」第56号
(2004年8月-9月号/隔月刊)

発行・著作:
独立行政法人 国立美術館/東京国立近代美術館©
編集:

東京国立近代美術館フィルムセンター
〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
☎03(3561)0823

制作:
印象社
発行日:
2004年8月1日

*無断転載を禁じます。

NFC NEWSLETTER
Bimonthly
(Volume X No.3 August-September 2004)

Published and Copyrighted by
The National Museum of Modern Art, Tokyo ©
(Independent Administrative Institution National Museum of Art)
Edited by
National Film Center
(The National Museum of Modern Art, Tokyo)
Add.: 3-7-6 Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, Japan
Tel.: 03(3561)0823
Designed and Produced by
Insho-sha
Date of Publication:
August 1, 2004

*No part of this publication may be reproduced or reprinted without the approval of the publisher.